知っていますか？

「さびしい」と「さみしい」どう違う？

日本語教室で「さびしい」と「さみしい」の違いを聞かれることがよくあります。
「さみしい」は、もともとあった「さびしい」が音変化したことばで、意味や使い方に違いはないため、「どちらを使っても大丈夫!」と伝えています。漢字の「**寂しい**」と「**淋しい**」も意味は変わりません。「**寂しい**」は常用漢字のため、学校や新聞などでよく使われ、「**淋しい**」は小説や詩などで見かけることが多いようです。

どちらも、主に「**さびしい**」と読むのですが、「**さみしい**」でも間違いではないとのこと。
あえて使い分けるのであれば…
「**寂しい**」: 人気(ひとけ)がなく、静まり返っている、より物理的な「さびしい」
「**淋しい**」: 心が満たされない、涙が出そうな、より個人的・情的な「さみしい」
それでも迷った場合は、「**さびしいを使えば大丈夫!**」と学習者に伝えることにしました。

Report

IISJ交通安全教室　@霧が丘

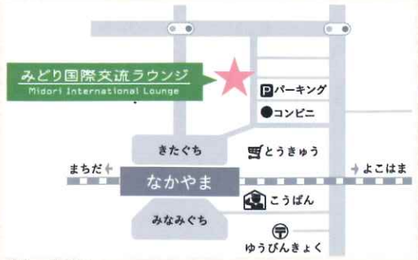
霧が丘にある India International School in Japan の小学生たちを対象に交通安全教室を行いました！今年で4回目になります。横浜市交通局職員の協力により本物のバスの運転席に座り、運転手の視界を体験し、背の低い子どもがバスに近づくと、運転手の死角に入ってしまうことを学びました。また、緑警察署職員の指導のもと交差点で、安全な自転車の乗り方を学びました。日本の交通ルールを学んで、安全に通学する意識を高める機会となりました。

◎日時：2026年5月25日(月)
◎場所：霧の里駐車場

ラウンジから

2026年4月から水曜日の閉館時間が 1時間早くなりました
水曜日：9:30－20:00
ご理解の程よろしくお願いします

発行：みどり国際交流ラウンジ
横浜市緑区中山1丁目6－15　パームビュービル 5階
TEL：045-532-3548　FAX：045-532-3549
Mail：info@midori-lounge.com
【開館時間】9:30～18:00(水曜日 9:30～20:00)
【休館日】毎週日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



みどり国際交流ラウンジは、横浜市緑区の委託を受けて NPO 法人みどり多文化共創の会が運営しています。

2026年7月発行
vol.17

まっ こんなちかくに外国が。 みどり国際交流ラウンジ News

色々な国の人々が緑区で暮らしに馴染めるようなイベントや講座をお知らせします！

リレートーク

日本人も再発見！ 多彩なカタカナの使い方

ながつたにほんご　がくしゅうちゅう
（長津田日本語クラブで 学 習 中 ）

川崎市国際交流協会が主催した「第31回 外国人市民による日本語スピーチコンテスト」で、最優秀賞を獲得したアルテーブ・アレクセイさん。選んだテーマは『カタカナの旅』。コンテストに出場した理由などをインタビューしました。

●いつ日本に来ましたか？ 日本に来た理由も教えてください。
2022年3月にロシアから来ました。子どもの頃からテレビを通して日本文化に興味を持っていました。いろいろな環境で生活し、違う文化の中で人々がどのように暮らしているのかを自分の目で見てみたいと思っていました。妻も日本が好きで、「一度は日本で生活してみよう」と話し合い、来日を決めました。

●スピーチコンテストに出場した理由と、カタカナをテーマに選んだ理由を教えてください。
日本で生活する中で感じたことや考えを、日本の方に直接伝えたいと思ったからです。自分の経験をもとに、少し違った視点から日本を見るきっかけを共有したいと考え、参加しました。
日本語を学ぶ中で、カタカナの使い方が外国人の感覚と大きく違うと感じました。最初は外来語の表記だと思いましたが、もっと幅広い役割があると気づきました。その面白さを伝えたいと思いました。

●スピーチコンテストに出場して良かったことを教えてください。
自分の考えを日本語で整理して伝える良い経験になりました。準備や本番を通して多くのことを学び、いろいろな方と交流できたのも大きな収穫です。運営や審査の方々もとても丁寧で、安心して参加できました。

●これから日本で何をしたいですか？
日本語や文化への理解を深めたいです。そして、自分にできることを一つずつ積み重ねながら、周りの人の役に立ち、社会に少しでも貢献したいと考えています。

CHECK!

日本語教室@緑区におじゃましま～す！

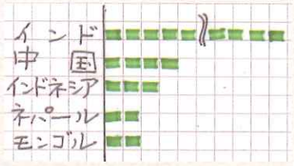
仕事帰りの人たち＆留学生が集う学び舎
～十日市場日本語教室（十日市場地域ケアプラザ/金曜日の夜）～

1993年の創設当時は「ベトナムなど東南アジアからやってきた避難民たちが生活に困らないよう、日常会話の勉強が中心でした」（正田さん）。現在は、「開始時間が夜の6時45分ということもあって、会社員や留学生が多いですね」（塚本さん）。お二人が心がけているのは「ボランティアも学習者もワイワイと楽しみながら、お互いに学び合うこと」とのこと。

年に2回、みんなが楽しめるイベントを開催。昨年12月は書道を体験。

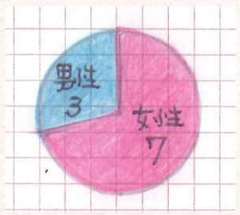
代表　塚本眞樹さん（左）・正田眞言さん（右）
中国語を勉強中の塚本さんは「学習者にちゃんと向き合うこと」がモットー。海外赴任を経験した正田さんは「現地でお世話になった恩返しです」。

ダントツ1位はインドの23名！



国別で見るとインドに次いで中国（4名）、インドネシア（3名）、ネパール（2名）、モンゴル（2名）と続きます。

ボランティアは総勢10名



ボランティアの数が足りないのが悩みとか。「経験は必要ありません。気軽に参加してください」（塚本さん）。

7年前にインドから来日。エンジニアのスラバンさんが取り組んでいるのはビジネス敬語。

ドンタ・スラバンさん

サイハンさん（左）とナムーンさん（右）

4年前にモンゴルから来日。介護の仕事をしているお二人はN2の試験勉強中。

目からうろこ

Report

外国人による『日本語発表会』
～にほんご de つたえよう～

2月1日、十日市場地域ケアプラザで「日本語発表会」が開催されました。
発表者は、日本語教室の学習者やOG・OBそして小学生など16名。
出身国は、インド、中国、フィリピン、バングラデシュ、モロッコ、アメリカと多彩でした。
最初は緊張していたみなさんも、本番が始まると表情が明るくなり、日々の練習の成果をいきいきと披露してくれました。故郷を語りながら涙ぐむ姿や、家族やお祭りの話、ラマダンの意味を紹介する小学生の発表など、どれも心に残る内容でした。さらに、日本で暮らす中で感じた、四季の美しさや街の清潔さ、電車の正確さ、健康保険制度の安心感、銃のない社会の安全性など、外国人ならではの視点も多く語られました。
発表後には交流会を行い、日本語・英語・中国語・アラビア語で書かれた色とりどりの感想カードが会場を彩りました。参加者同士が互いの文化に触れ合う、温かいひとときとなりました。

「話してよ 習った英語 少しでも」「日本人は 日本語しか しゃべらない」

～多文化共生かるた<生活習慣編>より～

多文化共生かるたは、緑区に住んでいる外国人と一緒に作ったカルタです。
観光で来日した外国人だけでなく、日本在住の外国人もやはりそう思ってるんだ…と、思わずドキッ!
私たち日本人は英語を長く学んでいるのに、話したり、聞いたりすることになると、急に身構えてしまいがちです。普段の生活で英語の必要性を感じにくいことにくわえ、「**まちがえるのが恥ずかしい**」という気持ちが大きな壁になっているからだと言われています。

日本語教室では「**まちがえてもいいからどんどん話してね**」と外国人学習者に言っているのに…と私自身も深く反省。大切なのは、完璧さよりも、相手に思いが届くこと。
もっと気軽に声を出していきましょう。
※『多文化共生かるた』はラウンジHPからダウンロードできます。

「にほんごカフェ」と「ゆるスタ」がはじまりました！

日本語を勉強したけど、話す機会がない！！という外国人を知っていたら、「にほんごカフェ」を教えてあげてもらえませんか？
そして、外国につながる中学生と高校生のみなさん！気軽に立ち寄れる自習室を立ち上げました！おしゃべりしながらゆる～く勉強しましょう！

にほんごカフェ　第1水曜日13:30－15:00　ラウンジ6階にて

日本語ボランティア、ラウンジスタッフが日本語でおしゃべりしたい外国人をお待ちしています。お茶を飲みながら、楽しくおしゃべりしましょう！

ゆるスタ　第1・3水曜日17:30－19:00　ラウンジ6階にて

地域の学習支援ボランティアまたは学生サポーターがお待ちしています。
宿題やテスト勉強をするもよし、おしゃべりするのもよし。気軽に足をはこんでみてくださいね！